服薬拒否の認知症患者への服薬支援

神埼薬局

○山口　菜々子、千代延　誠治、千代延　久美子

【目的】

　大量の残薬と服薬コンプライアンス不良が発覚した認知症患者への在宅訪問を行うことにより、患者のコンプライアンス向上を図った一例である。この患者は、アドヒアランスが悪く、薬への恐怖心があり、意図的に薬を飲まない患者であった。

【方法】

　ケアマネージャーより自宅に大量の残薬があると相談を受け、在宅介入による服薬支援を開始した。介入当初、11錠の定期薬を服用中であった。処方医および病院内の薬剤師と連携し、処方の見直しと減薬を行った。月・水・土曜はデイケアにて服用してもらい、火・金曜は訪問ヘルパーへ声かけを依頼した。自宅に日めくり型のカレンダーを設置し、毎週在宅訪問を行った。

【結果】

　錠数と服用回数が減少したことで、薬に対する苦手意識が軽減し、以前より服薬コンプライアンスが向上した。

【結論】

　今回、服薬支援を行う上で、「なぜ薬を飲みたくないのか」「今後どのように過ごしたいのか」等、本人の気落ちを傾聴することの必要性を感じた。本人や家族の気持ちに寄り添い、他職種と連携し情報を共有することが、コンプライアンス改善に必要である。